

## 《第1号議案》 2022年度事業報告

### 1. 部落問題・人権問題に関する各種の調査研究

#### (1) 部落問題の歴史的研究（主任研究員 塚田孝・竹永三男）

2022年度定時総会で提案・承認された歴史部門の研究方針では、引き続き、人権や民主主義をめぐる状況と運動の今日的展開をふまえながら、部落問題を前近代から現段階までの歴史展開の総過程の中で位置づけるとともに、身分や部落問題、人権にかかわる諸問題について各時代の全社会構造の中で具体的に、とりわけ地域社会の構造との関連で把握する研究に取り組むことを課題とし、科研費を活用した共同研究・個人研究の取り組み、研究会の開催と『部落問題研究』・部落問題研究者全国集会での研究成果の発表などを具体的方針として提示した。

##### 1. 研究会などの開催

2022年度には、歴史研究会および「奈良科研」の研究例会として次の研究会を開催した。

①2022年6月23日(オンライン) 藤本清二郎氏「近世かわた村の生活構造—地縁集落の展開と特質—」

※紀州の部落に遺存する文書の分析に基づき、家族・家の性格と村の生活を近世—近代を通して分析した。

②8月27日 高田雅士『戦後日本の文化運動と歴史叙述 地域のなかの国民的歴史学運動』書評会(キャンパスプラザ京都/対面・オンライン)

報告①大串潤児「『国民的歴史学運動』論の切実さとは何か？」

報告②田中 聡「国民的歴史学運動の展開と地域史の共有」

応答 高田雅士/司会 原田敬一

※「奈良科研」研究分担者である高田雅士氏の著書を対象とし、京都民科歴史部会・日本史研究会近現代史部会・部落問題研究所歴史研究会と「奈良科研」の合同研究会として開催した。その成果は『部落問題研究』244輯に掲載した。

③10月23日 第60回部落問題研究者全国集会分科会

歴史Ⅰ分科会(身分的周縁研究の成果と課題)

多和田雅保「社会集団史を活かす」

村 和明「近世の天皇・朝廷研究と身分的周縁(仮題)」

吉田伸之 コメント①

大黒俊二 コメント②「社会集団とエゴ・ドキュメント」

歴史Ⅱ分科会(地域における社会関係と地域構造の歴史的変容)

吉原大志「日露戦後の神戸における開発と都市社会」

中村 元 コメント

※歴史Ⅰ分科会は、『《新体系日本史》8 社会集団史』(山川出版社)の刊行を承けて、その成果を確認・発展させることを課題として設定した。歴史Ⅱ分科会は、地域構造の歴史的分析の課題を都市神戸を対象として追究することをめざした。報告内容

は、『部落問題研究』245輯（2023年6月刊行予定）に掲載する。

④11月21日（対面・オンライン）

徳永光俊「大和農法からみる日本農法史の展望—アグロヒストリア（農史）の道—」

※「奈良科研」で対象としている奈良盆地地域の農業の特色を、農法に視点を据えて前近代・近現代を通観し、その段階的変化を論じた。

⑤2023年2月21日 「奈良科研」第2回合同巡見（大和郡山市域）

※大和郡山市稗田町・番条町・昭和工業団地・片桐民主診療所・矢田山住宅団地を巡見し、治水の歴史的構造を地形と村落配置に基づいて現地観察するとともに、工業団地・住宅団地の現況、地域における医療運動の史料調査を行った。

⑥3月27日（オンライン）

読書会「大石嘉一郎・西田美昭編著『近代日本の行政村』（日本経済評論社、1991年）

※行政村の歴史的段階的変化を役場文書の分析を通して究明した本書を対象として、地域構造の歴史的変容を追究する研究の課題と方法を検討した。

2. 研究成果の『部落問題研究』への掲載（編集活動の項参照）

①部落問題研究所刊行図書、『部落問題研究』初出論文収録図書の書評会での報告および書評を系統的に掲載した。

②第59回部落問題研究者全国集会歴史Ⅰ・歴史Ⅱ分科会報告を『部落問題研究』241輯に掲載した。

3. 他学会との共同

①高田雅士氏の著書の書評会を京都民科歴史部会・日本史研究会近現代史部会と合同で開催し、研究交流を進めた。

以上、2022年度の歴史部門の研究活動は、臨時総会で提起した方針に基づいて進められたが、研究例会の定期化と開催回数拡大は引き続き課題として残した。

（2）現代部落問題論・人権論の研究（主任研究員 奥山峰夫）

研究の重点として、①「人権問題意識調査」の検討、②「部落差別解消推進法」をめぐる「条例」制定などの動向の検討、③地域における人権諸課題の実証的研究をあげて取り組んできた。

【現代部落問題論・人権論研究会】

2022年

6月24日 奥山峰夫：「部落」名の公表は「差別事件」を引き起こすか

7月29日 井手幸喜：旧「同和地区」におけるまちづくりの課題

2023年

3月31日 京都市における改良住宅建て替え問題の課題（意見交換）

【部落問題研究者全国集会 現状分析・理論分科会】

10月23日 井手幸喜：旧「同和地区」におけるまちづくりの課題

—京都市の場合—

奥山峰夫：「部落」名の公表は「差別事件」を引き起こすか

(3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究(主任研究員 梅田 修)

1. 各種の研究会での報告

【教育研究会】

教育研究会では適宜例会を実施してきた。例会のテーマ及び報告者は次の通りである。

2022年

5月29日 山田 稔：「教育研究会」半世紀にわたる同和教育実践と部落問題解決へのとりくみ—滋賀の地からのレポート(1958～2008年)

9月4日 大八木賢治：高校生はロシアのウクライナ侵略戦争から、何を学び考えてきたのか—今日の平和教育の意義と課題—

12月4日 梅田 修：「部落差別の実態に係る調査結果」は何を明らかにしたのか—同和地区の表示は差別にあたるのかにもふれて—

2023年

2月19日 川辺 勉：部落問題の解決過程における諸問題

【部落問題研究者全国集会 教育分科会】

第60回部落問題研究者全国集会「教育」分科会では、テーマ「今日における平和教育の意義と課題」にもとづき、次の報告と討議を行った。

10月23日 大八木賢治：高校生はロシアのウクライナ侵略から何を学んできたか  
庄司 春子：軍備増強論の下での平和教育の意義と課題

2. 学術論文などの発表

梅田 修「人見亨と未発の『徹底的融和教育』」『部落問題研究』第243輯

川辺 勉「部落問題の解決過程における諸問題」『部落問題研究』第244輯

(4) 人権に関わる文芸の研究(主任研究員 秦 重雄)

【文芸研究会】

今年度はコロナ禍以前の状態に復帰したものの、9月は大型台風の来襲により中止を余儀なくされた。各回の日時・テーマは次のとおりである。

・第225回(7月18日)

創作「貧しき隣人」「叛逆をたくらむ女囚」「差別されたる者の叫び」「特殊部落に入りし女より」「田舎教師の日記から」(『部落問題研究』239輯に収録)を読む

・第226回(1月15日)

刀禰静子の文章(「穰多村の娘に生れて」他6点『部落問題研究』242輯に収録)を読む

・第227回(2月26日)

泉鏡花「妖剣紀聞」(ちくま文庫 東雅夫編『刀 文豪怪談ライバルズ!』)を読む

・第228回(4月30日)

映画『破戒』(前田和男監督・東映製作)を観る

なお、上記例会における報告と討議の主な内容は、毎回発行の『文芸研究会ニュース』に掲載している。また、月刊誌『人権と部落問題』掲載の「文芸の散歩道」は本研究会が担当しており、1999年10月以来、260回を数えている。

### 【部落問題研究者全国集会 思想・文化分科会】

「思想・文化」分科会では、〈テーマ：「部落問題文芸作品年表 大正篇」から見えて来るもの〉に基づき、次の報告と討議を行った。

10月23日 秦重雄：「部落問題文芸作品年表 大正篇」から見えて来るもの

「部落問題文芸作品年表 大正篇」自体は『部落問題研究』244輯に収録されている。

なお、『部落問題研究』242輯は、239輯に引き続き、「特集 全国水平社創立100年」〈その2〉として「部落問題文芸の発掘と解説」をおこなった。「水平運動展開期の文芸作品」を9点翻刻し、書誌情報の提供と解説を付したものである。

## 2. 科学研究費助成事業による新たな研究の推進

(1) 2021年度の科学研究費助成事業に申請した「奈良県の地域構造変容と部落問題に関する歴史的研究—地域構造分析・比較研究を通して」（研究代表者：竹永三男／基盤研究B／5年間）が採択・交付された。この科研費研究を基盤にして、部落問題解決過程の総合的地域史研究を継続的に推進してきた。

(2) 2022年度の科学研究費助成事業に申請した6件のうち、次の3件が採択された。この科研費研究を基盤にして、個別研究の深化をはかってきた。

- ①「近世における流動層社会の構造的的研究—『行き倒れ』を中心に—」（研究代表者：藤本清二郎／基盤研究C／3年間）
- ②「高度経済成長期の地域変動と社会運動—泉北における文化財保存運動と泉北教組」（研究代表者：坂井田徹／基盤研究C／3年間）
- ③「戦時・戦後における大都市近郊地域の歴史的変容と『生活課題』—兵庫県明石市の分析」（研究代表者：本井優太郎／基盤研究C／5年間）

## 3. 部落問題研究者全国集会などの開催

2022年10月22日（土）～10月23日（日）、立命館大学朱雀キャンパスを会場に、対面方式によって開催した。参加者は延べ94人であった。

(1) 全体集会（1日目）は、「全国水平社創立百年と部落問題解決過程の到達点—今も『部落差別は根深く存在する』」のかをテーマに、次の3報告にもとづいて質疑・討論を行った。

- ・ 秦 重雄（大阪府立桜塚高等学校）「文芸研究から提案する現代のテーゼ」
- ・ 石倉康次（広島文化学園大学）「部落問題解決過程から学ぶことと現代の課題」
- ・ 広川禎秀（部落問題研究所）「国民融合論と部落問題解決過程」

(2) 分科会(2日目)は、5つの分科会(歴史Ⅰ・Ⅱ、現状分析・理論、教育、思想・文化)ごとに報告・討論をおこなった。

#### 4. 和歌山県立図書館の部落問題関係図書の閲覧制限に関するとりくみ

和歌山県立図書館では2019年4月1日より「旧同和地域」地名や近世かわた身分関係地名の記載を理由に71冊の図書に「閲覧制限」の措置が行われてきた。

こうした旧同和地域地名に触れた研究書・調査報告書・概説書などの閲覧制限は、①市民の知る権利を制限するものであり、②言論表現活動に制約を加える措置であり、③研究書については「学問の自由」を侵害する行為であり、④さらに出版者の「表現の自由」を侵害する行為である。以上の理由から、部落問題研究所は2022年10月29日に理事長名で「旧同和地域地名を理由とした図書71冊の閲覧制限の解除に関する申し入れ」を行い、次の2点を要求した。

1. 上記列記の図書を「閲覧制限」の対象とし、「表現の自由」「閲覧の自由」を制約するに至った理由について1冊ごとの説明を求める。

2. 直ちに「閲覧制限」の指定を解除し、運用規則にある「人権侵害を生じるおそれ」という「表現の自由」などの権利侵害に繋がる可能性が強い規定の改正を求める。

この「申し入れ」に対して、和歌山県立図書館から令和4年12月2日付で「県立図書館利用制限資料取扱要綱について、第3条第1号『人権侵害を生じるおそれ』の部分を、客観的に明らかな文言となるよう速やかに改正します。」との回答があった。その後、部落問題研究所宛に、要綱改正の具体的内容を示した「県立図書館利用制限資料取扱要綱に係る回答書」(2022年12月27日)が送付されてきた。この要綱改正によって、2023年1月1日より「閲覧制限」は解除された。こうした「閲覧制限」の解除は妥当な措置であり、評価するものである。

#### 5. 『所蔵図書・資料総合目録』の作成及び図書・資料の収集・紹介に関する事業

##### (1) 『部落問題研究所所蔵図書・資料総合目録』の作成

1) 総合目録の内容を確定した。

① 図書目録

② 資料目録一「三好文庫」「北原文庫」「水平文庫」「北川文庫」

③ 視聴覚等資料目録

2) 三カ年計画の3年度(2021年度)は、データ入力をほぼ完成し、2022年度はHP掲載に向けたデータの点検を進めた。

##### (2) 部落問題関係図書・資料の収集

磯前順一ら監修『差別の地域史—シリーズ宗教と差別第(3巻)』(法蔵館)／黒川み

どり『増補 近代部落史』（平凡社）などの図書を購入した。また、多数の図書・資料の提供を受けるとともに、歴史、現状、運動、行政、人権、教育、文芸などに関する資料の収集を進めた。

### （3）関係図書・資料の紹介

『人権と部落問題』『部落問題研究』『会報』において、関係資料の紹介をおこなった。

## 6. 機関誌・研究紀要・学術図書等の刊行

### （1）『人権と部落問題』（月刊）を毎月2200部、年12回を編集・刊行した。

特集のテーマは、次の通りである。

- 「18歳から成年」（4月号）
- 「沖縄返還50周年」（5月号）
- 「非正規労働者と人権」（6月号）
- 「気候変動と環境破壊に抗して」（7月号）
- 「ロシアのウクライナ侵略—国際社会への挑戦」（8月号）
- 「部落問題と表現の自由—閲覧制限をめぐる一」（9月号）
- 「子どもの権利保障と保育制度の今」（10月号）
- 「高齢者は大切にされているか」（11月号）
- 「日本で生きる外国人の人権」（12月号）
- 「食糧危機に抗して、食の安全・安心を」（1月号）
- 「在日コリアンの自由と平等」（2月号）
- 「今日の部落問題をめぐる争点」（3月号）

### （2）紀要『部落問題研究』の241輯、242輯、243輯、244輯を各500部を刊行した。主な論稿は、次の通りである。

- 241輯 第59回部落問題研究者全国集会報告
- 242輯 秦 重雄「水平運動展開期の文芸作品とその書誌情報・解説（続）」  
藤本清二郎「近世かわた村民から近代大字住民への展開」（研究ノート）  
石川元也／石倉康次「部落問題解決と裁判闘争—一九八六年の政府の方針  
転換をめぐる一」（部落問題解決過程への証言）  
書評—茂木陽一「松尾壽著『近世後期隠岐嶋流人の研究』」
- 243輯 梅田 修「人見亨と未発の『徹底的融和教育』」  
書評シンポジウム—飯田直樹『近代大阪の福祉構造と展開—方面委員制度  
と警察社会事業史—』をめぐる一  
書評—井ノ元ほか「飯田直樹『近代大阪の福祉構造と展開』／菊池勇夫  
「藤本清二郎・竹永三男編『「行倒れ」の歴史的研究』（一）」／樋口  
雄一「藤本清二郎・竹永三男編『「行倒れ」の歴史的研究』（二）」  
時評—駒込 武「産学官連携の同時代史」

#### 244輯 川辺 勉「部落問題の解決過程における諸問題」

研究評論—「部落問題解決の歩みと同和行政施策を否定するラムザイヤー」  
書評を通して考える—大串潤児「『国民的歴史学運動』論の切実さとは何か？」／高田雅士「国民的歴史学運動研究の課題と展望」／原田敬一「国民的歴史学運動からの問いを考える」

書評—萩原園子「鬼嶋淳著『戦後日本の地域形成と社会運動』」

研究資料—秦 重雄「部落問題文芸作品年表大正篇」

研究委員会の中に『部落問題研究』の編集担当（6名）を置いて編集を検討し、定期発行を継続してきた。但し、投稿論文の少なさなど安定的な発行には課題を残している。

#### (3) 関係図書編集と刊行

1. 東上高志『日本教育の青春と部落問題』（2022年8月／自費出版）200部刊行
2. 秦 重雄『映画「私のはなし 部落のはなし」を観て一部落問題を深掘りする』（2021年10月）500部刊行
3. 尾川昌法『新版 写真で見る水平運動史』（2023年3月）600部刊行

#### 7. 法人の機能を活用した各種サービス

##### (1) 輪読会・読む会の開催

1. 島崎藤村「家」の輪読会  
2021年より始め、2022年度は5回開催した。2023年度も継続中。
2. 「水平新聞」を読む会  
全国水平社創立100周年（2022年）を迎えて、2001年より「水平新聞」を読む会を月1回程度継続的に開催してきた。

##### (2) 研究会の開催

歴史、現代部落問題・人権論、教育、文芸の各分野ごとに研究会を開催した（詳細は、各種の調査研究の項を参照）。会場は、明記したものの以外は部落問題研究所。

2022年

- 5月29日 教育研究会
- 6月23日 歴史研究会（オンライン）
- 6月24日 現状・理論研究会
- 7月18日 文芸研究会
- 7月29日 現状分析・理論研究会
- 8月27日 歴史研究会（共催、キャンパスプラザ京都、オンライン併用）
- 9月 4日 教育研究会
- 10月22日 第60回部落問題研究者全国集会全体会（立命館大学朱雀）
- 10月23日 第60回部落問題研究者全国集会分科会（同上）

1 1月21日 歴史研究会（オンライン併用）

1 2月 4日 教育研究会

2023年

1月15日 文芸研究会

2月19日 教育研究会

2月26日 文芸研究会

3月27日 歴史研究会（オンライン）

3月31日 現状分析・理論研究会

総合研究会

2つの観点（1. 部落問題解決過程の進展を阻害する様々な事態・動向について、今日の人権と民主主義をめぐる状況と運動をふまえて、批判的な検討を進める。2. 部落問題解決過程の到達点に関する研究を推進し、研究成果の普及を図る。）から、総合研究会を適宜開催することにした。

2022年

7月16日 第1回 新井直樹「インターネット上の部落差別と法務省『通知』」

9月17日 第2回 部落問題研究者全国集会全体会準備報告（秦重雄、広川禎秀）

9月25日 第3回 藤本清二郎「法務省見解批判と『部落』再考」

2023年

3月19日 第4回 川辺 勉「部落問題の解決過程における諸問題」

### （3）学習講座の開催

2022年度は、「人権と部落問題講座」として、次の3講座を実施した。

第1講座（2023年1月18日）

秦 重雄（部落問題研究所研究員）「今日の部落問題を深掘りする一映画『私のはなし 部落のはなし』を参考に」

第2講座（2023年2月25日）

井手幸喜（部落問題研究所研究員）「旧同和地区の再開発とまちづくりをどう進めるか」

コメンテーター・石倉康次（部落問題研究所理事）

第3講座（2023年3月25日）

藤本清二郎（和歌山大学名誉教授）「部落地名掲載図書の閲覧制限と『表現の自由』」

コメンテーター・丹羽 徹（龍谷大学法学部教授）

各講座とも20名ほどの参加があった（対面＋オンライン）。

### （4）講師の斡旋

部落問題・人権問題の講師派遣については、コロナ渦の影響で依頼が少なかったものの、「部落差別解消推進法」に係わって開催された各種集会や人権講座への講師要請に応じてきた。



(5) 関係資料の閲覧・貸し出し

部落問題・人権問題に対する資料の貸し出し要請に対応してきた。

(6) 相談活動

部落問題・人権問題に対する各種相談に対応してきた。

## 8. 目的を同じくする各種機関・団体との連絡・協力

和歌山県立図書館の閲覧制限問題に象徴される「旧同和地区地域」地名表記の規制強化に対して、歴史学四者協（日本史研究会・歴史学研究会・歴史科学協議会・歴史教育者協議会）との間で共同声明（仮）をだす努力を続けてきた。部落問題に関する認識や「表現の自由」に関する問題などで部落問題研究所の見解を述べ、若干の意見交換ができたが、足並みが揃わず文書をまとめることができなかった。

「全国水平社創立100周年」に向けて組織された全国水平社創立100周年記念事業実行委員会に参加し、記念事業の実施に協力してきた。2023年1月14日には、「全国水平社創立100周年記念中央集会」が約200名の参加で開催された。

## 9. 役員会などの開催

### (1) 臨時総会の開催

2023年4月16日（日）に臨時総会を開催して、次の議案を審議し、議決した。

- ① 2023年度事業計画
- ② 2023年度資金調達及び設備投資の見込みについて
- ③ 2023年度収支予算

### (2) 役員会

1) 理事会を 回開催して、研究所の事業運営について審議し、執行した。

第1回 議事 ① 定時総会の議案について

(5月28日) ② 2021年度監査報告について

③ 研究活動について

④ HPの更新について

第2回 議事 ① 研究活動について

(7月25日) ② 財政活動について

③ 事業活動について

④ 会員拡大について

⑤ HPの更新について

⑥ 2022年度部落問題研究所の体制について

- 第3回 議事 ①研究活動について  
 (9月25日) ②財政活動について  
 ③事業活動について  
 ④会員拡大について  
 ⑤HPの更新について
- 第4回 議事 ①研究活動について  
 (11月20日) ②財政活動について  
 ③事業活動について  
 ④会員拡大について  
 ⑤HPの更新について  
 ⑥内閣府の監査
- 第5回 議事  
 (1月22日) ①内閣府の立入調査について  
 ②科学研究費関係の規則の改定  
 ・「研究活動に係る不正防止に関する規則」の改定  
 ・「『研究活動に係る不正防止に関する規則』に関する内規」の改定  
 ③財政活動について  
 ④事業活動について  
 ⑤会員拡大について  
 ⑥HPの更新について  
 ⑦総会の開催の延期について
- 第6回 議事 ①財政活動について  
 (4月9日) ②2022年度臨時総会の議案について  
 ③研究活動について  
 ④事業活動について  
 ⑤会員拡大について  
 ⑥HPの更新について

## 2) 監事による監査

監事(4名)は、2022年5月11日部落問題研究所において、2022年度定時総会(6月12日)に附議する業務執行状況・財産状況について監査した。

## (3) 委員会

2019年度より、5つの委員会体制(編集委員会・研究委員会・財政委員会・事業委員会・資料委員会)をとっている。2022年度は、編集委員会を12回、研究委員会を6回、財政委員会を5回、事業委員会を6回、所管の事項を審議した。この他にHP関連の会議を継続的に開催した。

## (4) 所内会議・事務局会議

2021年度まで開催していた役職員全員による所内会議を開催できず、部落問題研究

所の運営に関する実態と課題を共有することが十分できなかった。2023年度以降は継続的に実施する必要がある。なお、理事長・常務理事・職員・ボランティアによる事務局会議は適宜開催した。

(5) 将来検討委員会

2016年7月18日に発足した第二次将来検討委員会は、2016年度は5回、2017年度は3回、2018年度は1回、2019年度は2回、2020年度は3回開催し、部落問題研究所の将来展望に関わる課題（研究活動・財政問題・図書資料の保存）について検討してきた。2021年～2022年度は開催しなかった。

(6) 会員の異動状況

2022年度末会員は、表の通りである。

| 種別            | 2021年度末 | 2022年度 |    | 2023/3/31<br>現在 | 増減  |
|---------------|---------|--------|----|-----------------|-----|
|               |         | 入会     | 退会 |                 |     |
| A<br>12,000   | 203     | 2      | 12 | 193             | -10 |
| B<br>6,000    | 44      |        |    | 44              | 0   |
| C<br>20000    | 68      |        | 1  | 67              | -1  |
| 賛助D<br>50,000 | 15      |        |    | 15              | 0   |
| E<br>特別会員     | 3       |        |    | 3               | 0   |
|               | 0       |        |    | 0               | 0   |
| 種別移行計         |         |        |    |                 |     |
| 合計            | 333     | 2      | 13 | 322             | -11 |

(注) 2020年3月20日の理事会で公益社団法人部落問題研究所会費規程を改定した。会員A・会員Bはそのままであるが、賛助会員Cは会員Cに、賛助会員Bは賛助会員Dに変更し、賛助会員Aは会員がないので廃止した。特別会員はEとした。

(7) ボランティアの協力

現在9名の方がボランティアとして来所されている。図書資料の整理、「会報」の作成、雑誌の編集・校正、図書資料のデータ入力の仕事に携わってもらっている。